

# 適性検査を用いた青山学院大学スポーツキャリアプログラム (AGU-SCP) の事例

Case Reports of Aoyama Gakuin University Sports Career Program (AGU-SCP) with Introducing an aptitude test

## <プロジェクト・メンバー>

佐藤 敏彦<sup>†1</sup> 星川 精豪<sup>†1</sup> 吉本 完明<sup>†2</sup> 原 晋<sup>†3</sup>  
稲積 宏誠<sup>†1</sup>

Sato Toshihiko<sup>†1</sup> Hoshikawa Seigo<sup>†1</sup> Yoshimoto Sadaaki<sup>†2</sup> Hara Susumu<sup>†3</sup>  
Inazumi Hiroshige<sup>†1</sup>

<sup>†1</sup> 青山学院大学 社会情報学部

<sup>†1</sup> School of Social Informatics, Aoyama Gakuin University

<sup>†2</sup> 青山学院大学 フィットネスセンター

<sup>†2</sup> Fitness center, Aoyama Gakuin University

<sup>†3</sup> 青山学院大学 地球社会共生学部

<sup>†3</sup> School of Global Studies and Collaboration, Aoyama Gakuin University

キーワード：スポーツキャリアプログラム, 適性検査, チームマネジメント, グループ学習

**Keywords:** Sports career program, Aptitude test, Team management, Group work

## 1. はじめに

2015年度に開講した青山学院大学スポーツキャリアプログラム (AGU-SCP) は、大学アスリートが将来、社会で活躍するための能力をスポーツの経験を活かしながら学ぶことを目標の一つとして、データの活用とそれに基づく論理的思考を身に着けることを目標の一つとしている [1].

データ活用という観点から、AGU-SCPの演習ではこれまでに、身体の状況を把握し、「コンディションの見える化」を図るアプリである ONE TAP SPORTS<sup>®</sup> (株式会社 ユーフォリア) や、動画をチームの仲間たちとクラウド上で共有し、アプリを通じて動画の内容を編集、タグ付けやコメントを書き込むこ

とにより分析、討議することができるアプリである SPLYZA Teams<sup>®</sup> (株式会社 SPLYZA) を導入し、その教育における有効性の評価を行ってきた。

今年度のスポーツキャリアプログラム演習では近年就職試験時に利用されることも多い適性検査を用いて、体育会活動における競技力向上やチームマネジメントに活用できるかどうかを検討した。

## 2. 使用した適性検査について

今回の演習で使用した Compass<sup>®</sup> は、南山大学経済学部・(故)高橋弘司准教授監修のもとに開発されたもので、4択式の全148問により構成されており回答時間は約20分となっている。WEBによる回答

により診断結果が即時に出せることができる。

診断結果は「活動性」、「社会性」、「進取性」、「思案性」、「競争性」、「自律性」、「共感性」、「徹底性」、「規律性」、「慎重性」、「神経質」、「悲観性」の12因子の特性と、これらの特性を強化あるいは制御する意識的行動や社会的現象に対する適応態度を示す「成熟度」として「自己肯定感」、「他者志向性」、「自己安定性」の3因子につき「指数」として表される（図1）。



図1 適性検査 Compass®の結果例

### 3. Compassを使用した演習方法について

今年度のAGU-SCPの演習のうち、陸上競技部長距離ブロック特別演習と、男子バスケットボール部特別演習において実施した。参加者全員にCompass®の質問票に個人キーを電子メールを用いて送付し、予め回答してもらい、演習当日に図1の回答結果を各参加者に配布した。

この結果を用いて、ワークシート（図2）を用いて結果の妥当性について自己評価を行う個人ワークを

行った後、数名のグループにより、それぞれの結果およびワークシートを元に、結果の妥当性について他者による評価を行うとともに、適性検査の結果を今後のトレーニングやチームマネジメントに生かしていく方法をディスカッションした。

### Athlete Agent ワークシート

パーソナリティレポートを参考に自分の特性を再確認し、職務に結び付け強みや弱みを整理します。その上で、今後の意識や改善(伸長)に向けた具体的な取り組みなどをまわっていきます。

\*パーソナリティレポートの指数を転記し、高いあるいは低い因子には✓を入れて下さい。指数が50前後の場合は✓は必要ありません。

✓欄	指数が低い場合の特徴	因子名 (指数)	指数が高い場合の特徴	✓欄
	物事の進行に時間がかかる、行動を起こす前に考えすぎる、反応が遅い	活動性 ( )	物事の判断が速く活動的行動力がある、自分が先陣に立ち行動することが多い	
	引っ込み思案であまり打ち解けない、対人関係をあまり好まない面がある	社会性 ( )	周囲と積極的コミュニケーションをとる、社交的で交友関係が広い、オープン	
	あまり変化を好まない、新しい物事を取り入れるのに消極的で保守的、安定志向	進取性 ( )	変化を好む革新的、既存の物事を良く変えていくこととする、実験好きで新しい物好き	
	あまり深く考え込まず直観的に行動する、自分の気持ちに振り回されやすい	思案性 ( )	物事を論理的・分析的に捉える、理論整然としていて合理的、深く考えすぎる	
	勝ち負けや優劣にこだわらず調和的、高く評価されることをあまり求めない	競争性 ( )	競争意識や成功意欲が強い、認められたいという意識が強く負けず嫌い	
	他論心が強く他人任せな面がある、自分自身で判断するより他人に任せてが多い	自律性 ( )	自分独自の判断で行動する、他人に頼らずやりようとする自己責任意識が強い	
	他人とクールに接する、相手の感情にあまり関心がなく利己的な面がある	共感性 ( )	優しく思いやりがある、他人の心の動きに敏感で共感的、開拓的	
	物事にこだわらずあきらめやすい、諦めが早く中途半端になりがち	徹底性 ( )	徹底的にやり抜くこととする、執念が強くひとつのことには集中する	
	約束や時間等にもいかに柔軟な面がある、多少軽率な面があり不用心	規律性 ( )	ルールや規則に厳格、物事を事前に決めた通りに進めることにはこだわる、真面目	
	大胆で思い切り行動を取ることがある、多少慎重な面があり不用心	慎重性 ( )	物事を慎重に進める、用心深く行動し大きなミスはしない、計画的で実務	
	細かいことを気にせず平穏としている、多少のことには気にしない	神経質 ( )	物事にも過敏で気にしすぎる、不安な気持ちになることが多く、自覚的傾向が強い	
	物事を前向きにとらえる、楽観的・希望的で成功をイメージしやすい	悲観性 ( )	物事や将来を悲観的にとらえることが多い、マイナス思考で悲観的になりやすい	

\*✓を入れた因子の中で、自分の強みや弱みとして高い低い行動を整理して下さい。(整理しやすいものを3つまで)

因子名	評価	思い当たる行動
強み / 弱み		
強み / 弱み		
強み / 弱み		

\*弱みを改善する(強みを伸ばす)ための取り組みを、自分の職務に結び付けて具体的に記述して下さい。


図2 適性検査 Compass®ワークシート

## 4. 結果

(1) グループ毎の検査結果例について

陸上競技部長距離ブロックは53名、男子バスケットボール部は17名から回答を得た。図3、4に男子バスケットボール部チームの各因子の平均値を示した。図3は他のスポーツチームとの比較、図4は学年毎の比較である。

図3においてバスケットボール部の平均値は折れ線グラフで示されているが、特性の12因子の平均値は他スポーツチームと概ね同様であるのに対し(個人毎のばらつきは大きかった)、「成熟度」の3因子は、「自己肯定感」が高く、「他者志向性」、「自己安定性」が

低かった。即ち、自分に自信があり、他者に合わせようとするのが少ない、そして、感情の影響を受けやすい傾向が認められた(図3)。

この3因子を学年毎で比較すると、「自己肯定感」、「他者志向性」は学年による違いは認められなかったが、自己安定性は学年が上がるるとともに低くなっていた(図4)。

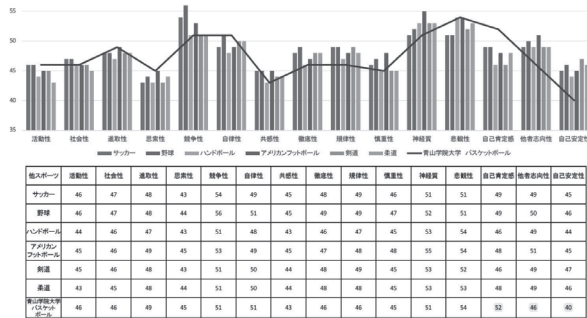


図3 他スポーツチームとの比較

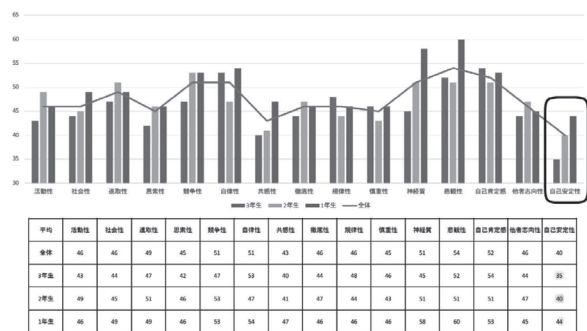


図4 学年毎の比較

(2) 結果に基づく自己ワークおよびグループワーク

ワークシートを用いて「自分の強み」「自分の弱み」を抽出したのちに「思い当たる行動」を記載させたところ、ほとんどの学生が思い当たる行動を記載しており、検査の結果を受け入れる者がほとんどだった。グループワークでは、他の人の結果をどのように考えるかを互いに話しあった後に、チーム特性について確認

し、それに基づく対策について考えさせた。特性についての共有はされたものの、その対策については時間も限られており十分な議論には至らなかった。

## 5. まとめと今後の課題

就職試験で幅広く採用され、妥当性と妥当性と信頼性が検証されている適性検査である Compass<sup>®</sup>が、スポーツチームの競技力向上やチームマネジメントにどのように利用できるかを検討、評価することを目的として今年度の演習において使用した。今年度実施した二つの体育会部会部員の回答により得られた検査結果は、自己評価、他者評価、いずれにおいても妥当性、信頼性を裏付けられる結果となった。一方、その結果を利用した改善方法については、今回は自由にディスカッションさせるにとどまり、十分な成果を得るには至らなかった。今後は、検査結果から対応方法を考えていく道筋をある程度示すようなプログラムを作ることが必要であると思われる。

また、今回は断片的な一度のみの検査結果によるものであるが、特性は個人のばらつきが非常に大きい結果となったため、チームや選手個人の成績により12の「特性」因子や3つの「成熟度」因子がどのような影響を受けるかについて検討するために定期的な実施をすることも必要であろう。

### 【謝辞】

今回の適性検査の実施にあたっては、株式会社アーシャルデザインの全面的なご協力をいただきました。心より感謝致します。

### 参考文献

- [1] 佐藤 敏彦, 苅宿 俊文, 稲積 宏誠 2017, これからの社会で活躍できる人材を育成するスポーツキャリアプログラムの開発について—青山学院大学スポーツキャリアプログラム (AGU-SCP) 青山社会情報研究 9: 68-72
- [2] 佐藤 敏彦, 星川 精豪, 吉本 完明, 苅宿 俊文, 原 晋, 稲積 宏誠 2020, 新型コロナ禍における青山学院大学スポーツキャリアプログラム (AGU-SCP) 青山社会情報研究 12: 68-71
- [3] 星川 精豪, 佐藤 敏彦, 吉本 完明, 苅宿 俊文, 原 晋, 稲積 宏誠 2021, 動画分析アプリを用いた青山学院大学スポーツキャリアプログラム (AGU-SCP) の事例 青山社会情報研究 13: 93-95